

「もうひとつの京都」アート・プロジェクト  
京都府アーティスト・イン・レジデンス事業 展覧会  
<http://kyoto-research.com/>

# 大京都 2020 in 和束

地域の魅力を  
アートの視点から

参加アーティスト

ARTISTS

渋田 薫

SHIBŪTA Kaōru

嶋田 晃士

SHIMADA Kohshi

牧嶋 平

MAKISHIMA Osamu

リヴァ・クリストフ

RIVA Christophe

ゲストアーティスト

GUEST ARTIST

Yukawa-Nakayasu

未  
開  
へ  
の  
わ  
だ  
ち

Ruts to the  
new uncivilization

2020年10月30日(金) - 11月1日(日) | 11月6日(金) - 8日(日) | 11月13日(金) - 15日(日) | 10:00 - 17:00

(株)すぎもと倉庫・空き店舗 | 手づくり工房 茶房 桶力 | 京都おぶふ茶苑 | FUKUTYAN HOUSE | 創造工房 自由庵

入場無料 | 協力:(株)すぎもと、(有)北午木材、京都おぶふ茶苑

表紙写真: ©Yukawa-Nakayasu

京都・Re-Search実行委員会(京都府、和束町ほか)

Facebook [www.facebook.com/air.kyoto.re.search](http://www.facebook.com/air.kyoto.re.search)

ウェブサイト <http://kyoto-research.com/>

Instagram @daikyoto



和束町文化振興会(和束町) | 和束町文化振興会(和束町) | 和束町文化振興会(和束町)

# 展示会場 Exhibition

- 01 (株)すぎもと  
倉庫・空き店舗  
和東町中市場4-1  
※駐車場有
- 02 手づくり工房  
茶房 桶力  
和東町中式部
- 03 京都おぶぶ茶苑  
和東町園大塚2
- 04 FUKUTYAN\_HOUSE  
和東町釜塚前田47
- 05 創造工房 自由庵  
和東町門前谷15

会場の  
グーグルマップ  
はこちら



## ② 手作り工房 茶房 桶力

ウッドデッキ: 渋田 薫

(有)北午木材 外壁: リヴァ・クリストフ

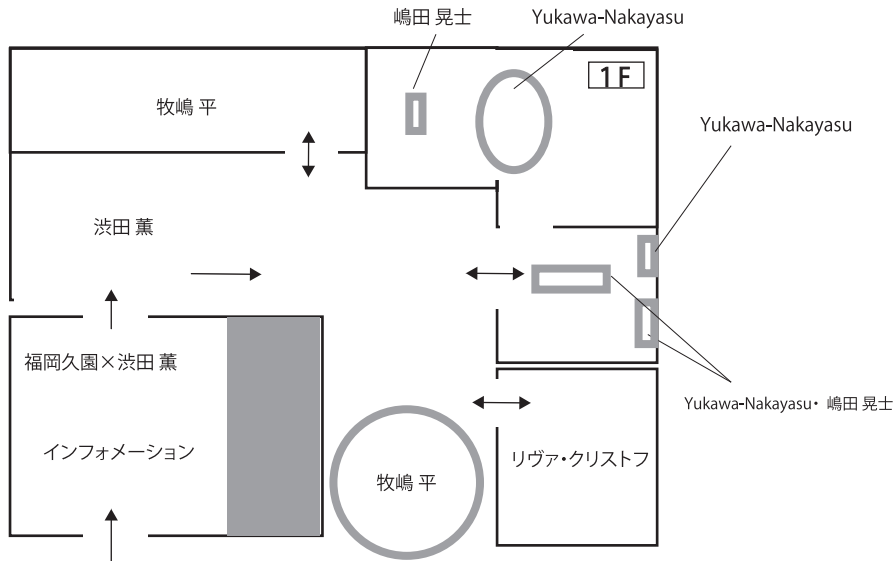
## ③ 京都おぶぶ茶苑

茶工場 外壁: リヴァ・クリストフ

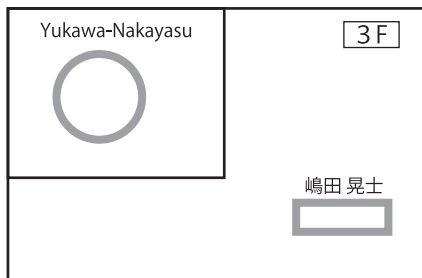
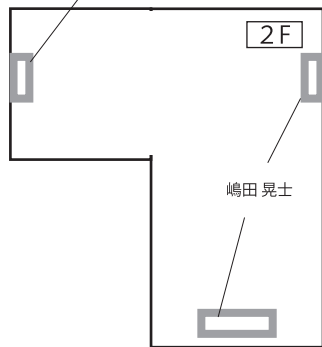
## ④ FUKUTYAN\_HOUSE

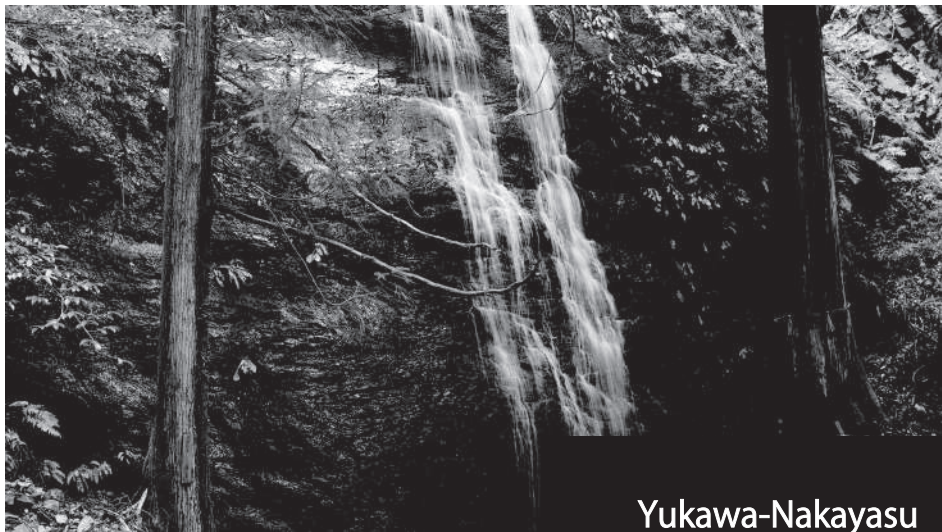
外壁・シャッター: リヴァ・クリストフ

① (株)すぎもと 空き店舗・倉庫



Yukawa-Nakayasu・嶋田 晃士





Yukawa-Nakayasu  
ユカワ-ナカヤス

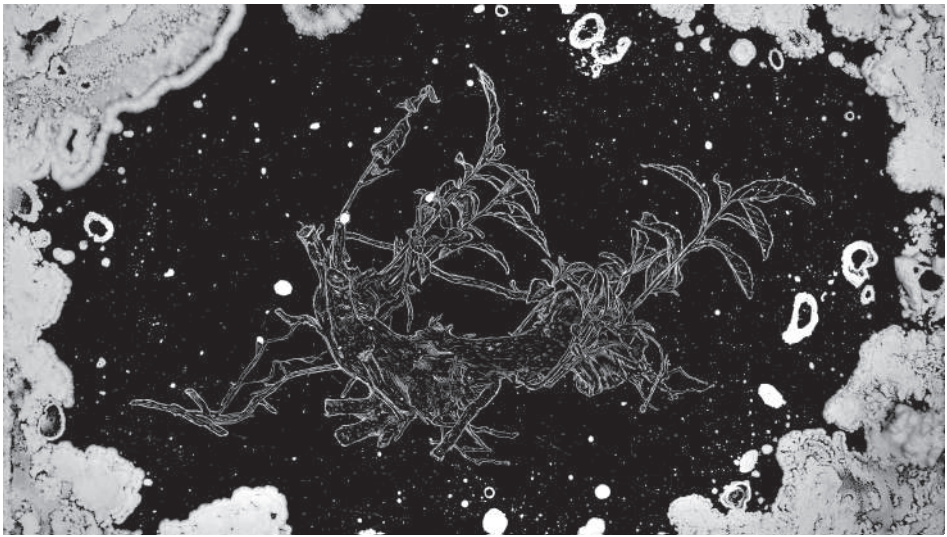
## 未開地のアフォーダンス

2020

綿布(サイアノタイプ)、デジタル  
プリント(アクリルマウント)、  
銅板、化学肥料、石、土、自生の  
茶、真鍮板、水など

自然-人工物の境界は、未開墾地を開拓する者、山中に修行場をおく山岳信仰者、そして自然災害など様々な力学によってゆらいでいる。かたや既に開拓され安全性を担保された場所を往来している私たちの行動は、境界を越境することのない社会循環をトレースし続けている。私は聖武天皇時代に開拓された、くにきょう 恭仁京東北道以前の深山幽邃しんざんゆうすいな気配を頼りに、この土地にある「自然-人工物の境界」の残像を作品へと遷うつすことで、境界を中和し未開へのわだちを描こうと思う。

本作は鷲峰山金胎寺の修行場にある御光ノ滝をえがいた暖簾をくぐり、一つ目の境界を越えることから始まる。そして先にある、根を露呈している自生の茶の物撮り写真、化学肥料を結晶化させた銅板エッチング、そして茶畑の石垣を模した彫刻は、人の手が行き届いた茶畑から疎外された自生の茶をとおして、鑑賞者の視点じねんを自然の視点へと少しづつ傾ける。そして土地の自然物(石、土、水)を倉庫内に再構成した人工の滝は、展示会場を循環し、自然-人工物のはざまにある既成概念を揺さぶる。



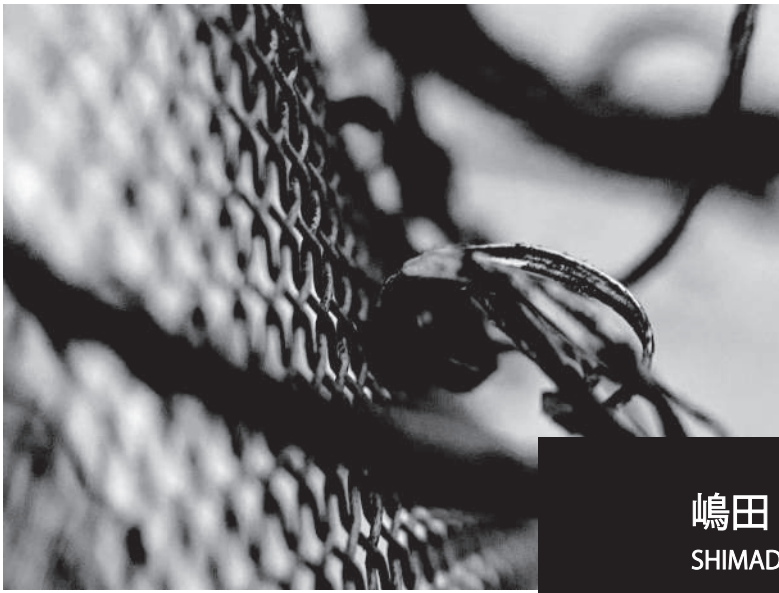
---

自然と人工物がハイブリットし未知の領域を限りなく開拓しつづける社会の流れに、私たちはいる。この流れの中、心身ともに粗野な感情をかきたてる境界や未開の地はどこにあるのだろうか？ この疑問が既成概念や価値基準を融解し、私たちの内なる野生を明滅させるきっかけとなるかもしれない。

展示場所：株式会社すぎもと倉庫（一部作品は嶋田晃土との共作）

協力（敬称略）

上嶋爽祿園 株式会社すぎもと 株式会社宮幸 北建材店 茶舗円通  
AOIOA（芦内晋、西川元晴） 小畔夕 岸田良博（Daiken corporation株式会社）  
高田幸人 富永一真 八木梓 山内秀明



嶋田 晃士  
SHIMADA Kohshi

## クラスの外側

2020

自生の茶の木、桜の枝、茶の葉、  
茶の花、家電、食器、スチール棚、  
茶缶、肥料袋、タイヤなど

2019年8月——原山を訪れた際、荒廃した茶畑を目の当たりにした。それは管理された和束の景観とは別のものであった。野生化した茶の木は縦横無尽に伸び、刈り揃えられた茶畑がいかにも不自然な存在なのかということを示している様だった。茶の木は自然物であるという当然の事柄を改めて確認する瞬間だった。茶は人間がそこに意味を与えることで「茶」としての価値や基準を仮象しているに過ぎないのだと。

その一年後、私は野生化した茶の木を和束の中で探した。そして和束の中には自生し野生化した茶が点在していることを知った。人間の価値基準の外にある「それ」は白い花を咲かせた生命として、本質としてただそこに存在していた。

2020年9月——木屋の家屋を訪れた。いらぬ家財道具を頂けることになったからだ。家の中の物をゴミとして片付けていく。食器や電化製品などの日常生活に必要な物から、何年も使われていないであろう臼や脱穀機、錆び付いた芝刈りの刃等、どれも今後使われることの無い物たちだ。

人間が作り出したものには必然性がある。それらはどれも必要性のもとに作り出されたからだ。それを物の本質とするのなら使われなくなった物とは何なのだろう？ それらは本来の物としての価値から離れ、ただそこに存在していた。



これら2つの出来事は、私の持つ価値観や帰属感というものを揺るがす要因となった。人の信じる価値観や基準は決して普遍的ではなく、その認識の表面はただの幻想にすぎない。その表面はずりりと剥がれ落ち、その奥には名前のない「何か」があるだけだった。私はおそらく和束という土地で創作活動を行う中、認識の外部、普段直視することのないクラスの外側に足を踏み入れていたのかもしれない。

本作ではこれらの出来事を手がかりに、和束で収集した様々な素材（自生の茶の木や折れた桜の枝、使われなくなった電化製品や食器、茶缶、肥料袋、タイヤ、イメージのデジタル・データ等）を掛け合わせることで生まれる、素材そのものから変化した別の表面を空間に再構成する。

展示場所：株式会社すぎもと倉庫（一部作品はYukawa-Nakayasuとの共作）

【パフォーマンス】

展示期間中の金曜日15:00、土、日曜日12:00及び15:00より  
作家によるパフォーマンスを上演（10分程度）

協力（敬称略）

AOIOA（芦内晋、西川元晴） 株式会社すぎもと 上嶋爽緑園  
山内秀明 山口みゆき 和束茶手揉技術保存会



渋田 薫  
SHIBUTA Kaoru

## 組曲

2020

身近な物事に和東の心を再発見する。

原山からの眺めを感じることからリサーチを始め、町を歩くと生き生きとしたものに出会いました。整った茶畑から飛び出る新芽、子どもの歌声、アスファルトを突き破る雑草、猿の群れ、町の人々の暖かさ。この経験を元にオーケストラの楽曲のように4つの絵画を制作しました。

展示場所：株式会社すぎもと倉庫

### 情景 原山からの眺め ～Andante～歩くように

キャンバスにアクリル、インク、  
ガッシュ  
200×190cm

原山から円形茶畑と和東町全体を眺めて感じ取り、それをスケッチする。

### 第1番 Back to the nature ～Vivace～活発に

キャンバスにアクリル、インク、  
ガッシュ (抹茶、カドミウム、コ  
バルト含む)  
600×200cm

テーマ：人と自然の境界

茶畑という枠から抜け出す新芽。

人為的な自然から本来の姿へ戻ろうとするところで人が摘み取る。農薬がかかっても新芽は元気な姿である。



## 第2番 New green leaves ～Animato～元気に生き活きと

キャンバスにアクリル、ガッシュ、  
インク  
600×200cm

テーマ：人間界の新芽

子ども歌う和東音頭を絵画に翻訳し、遊ぶように仕上げる。昔の歌を歌っても子どもの声には子どもらしさがある。枠にとらわれない自由。

【園児による和東音頭(2019)】

[https://youtu.be/31uhRW\\_Eabw](https://youtu.be/31uhRW_Eabw)



展示場所：創造工房 自由庵

## 第3番 Monkey time ～Super Prestissimo～超速く

キャンバスにアクリル、インク、  
ガッシュ  
200×960cm

テーマ：人と野生の境界線

野生的に全裸で。

堂々と去る大猿・アスファルトを突き破る雑草・夜明け前の雷鳴からのインスピレーション。

遊ぶ、イタズラ、壊す、奪う。

音楽：Hideto Uesugi  
(和東町在住)

“猿は秋になると、柿やみかんなど、果物が美味しくなる時期にやってきては食べ尽くします。あと、うちも、家の屋根を歩くので…瓦がズレて雨漏りして畳がダメになったり、瓦を交換したりとか…猿害に悩まされました。

一見、可愛いところもあるのですが、結構、和東の人からしたら憎いところもありあります。”(福岡久園・岡田奈津枝)

※猿の数を減らすため、役場が定期的に駆除している。

展示場所：手づくり工房 茶房 桶力

## 第4番 Grandma ～Grave～重々しくゆるやかに

キャンバスに屋外塗料、アクリル、  
ガッシュ  
200×1040cm

テーマ：智慧、目には見えないもの

絵画『Tenor "鳴き声"』

音楽『Wazuka』：池上綾乃  
(「京都:Re-Search 2019 in 和東」  
滞在制作作品)

ソプラノによる音楽『Wazuka』に呼応し、和東の中心に"おばあちゃん"を出現させるための絵画。

協力(敬称略)

とみたちひろ 北和久(北午木材) 岡田奈津枝(福岡久園) 池上綾乃 Hideto Uesugi  
鴨江アートセンター Elisabeth Jones Art Center 雲の平山荘アーティストインレジデンス  
Kronos Art BCN ARTS SANTAMONICA d:matcha Kyoto CAFE&KITCHEN  
大岡英介(oversoul sound studio) 和東町立和東保育園



牧嶋 平

MAKISHIMA Osamu

## 草玉を燃す<sup>も</sup>

2020

人は「草刈り」をして生きている。町に住み、そこで働き、土や草に触れなくても、その生活全体は「草刈り」である。目の前の日常を黙々と、戸惑い喜びながら、草刈りのように続けていく。それが生活の条件であり、かけがえがなくも、不毛なことである。

•

長野県に叔父が残した家がある。父を中心に家族は、20年以上、その空き家の管理を続けてきた。季節ごとに帰省し、墓や庭の草を刈り、そして燃やす。その繰り返しも、叔父の死に対する戸惑いも、気づけばひとつの景色となった。

•

私もまた「草刈り」をして生きている。町に住み、そこで働き、何かを作ろうとして作れない生活もまた「草刈り」である。それは戸惑いであり、不毛であり、かけがえのないことである。

•

刈っても刈っても生活は続く。恨めしさも、愛おしさも終わりが無い。その繰り返しを玉にして、自ら、まるごと燃やす。



展示場所: 株式会社すぎもと倉庫・空き店舗

「草玉」(空き店舗前)

2020

和束町および木津川流域の草、木材、板、紐  
500cm×500cm×500cm

「父の草刈り」(倉庫1階)

2020

映像(約40分)

「生活の総量」(倉庫1階)

2020

和束町および木津川流域の草  
サイズ可変

「祖母の墓標」(倉庫2階)

1990/2020

牧嶋さかゑ/栄誉重願浄恵大姉墓標(木材)  
12cm×12cm×165cm

「ドローイング」(倉庫1階、2階)

2019、2020

紙、ペン、アクリルペイント、板

「獣は死なない」(倉庫2階)

2020

映像(約15分)

「草玉を燃す<sup>も</sup>」(和束町内某所)

2020

パフォーマンス  
2020年11月15日実施予定

協力(敬称略)

岡本孝介 杉本豊文 北和久(有限会社北午木材/和束の森探検隊) 北昇  
岸田良博(Daiken corporation株式会社 木崎裕太(キザキ食品株式会社) Hideto Uesugi 岡田泰典  
よしだぎょうこ(金沢美術工芸大学) 吉田豊子 南唯乃  
土井裕子(有田・井上文化財団/NPO五ヶ瀬川流域ネットワーク) 村田優大 太田凌嘉  
京都市立芸術大学大学院構想設計領域 福永利光 国土交通省近畿地方整備局木津川上流河川事務所  
杉本則行(株式会社すぎもと) 杉本千枝



写真:「筋トレ de 和束」

リヴァ・クリストフ

RIVA Christophe

## 筋トレ de 和束

2020

この地に滞在し始めてから、様々な出来事があった。人との出会い、何気ない意味深な会話、高いところに登って描く壁画、夜道で穴に落ち足を怪我をするなど。これらの体験は自分にとってどれ一つ欠かせない大切なものであり、今の自分や作家としての態度などを改めて考えさせられるきっかけとなった。

展示場所: 株式会社すぎもと 空き店舗  
手づくり工房 茶房 桶力  
京都おぶぶ茶苑  
FUKUTYAN\_HOUSE



写真:「似顔絵合戦」



写真:「二つの茶畑」

協力(敬称略)

京都おぶぶ茶苑 (有)北午木材 岸田オーナー とみたちひろ  
湯船区長 和束町長 なごみの湖(湯船フィッシングエリア) 北建材店

# 大京都 2020 in 和束

“未開のわだち”

Ruts to the new uncivilization

会期

2020年10月30日(金)–11月1日(日) | 11月6日(金)–8日(日) | 11月13日(金)–15日(日) |  
10:00 – 17:00

会場

(株)すぎもと 倉庫・空き店舗 | 手づくり工房 茶房 桶力  
| 京都おぶぶ茶苑 | FUKUTYAN\_HOUSE | 創造工房 自由庵

参加アーティスト

渋谷 薫

嶋田 晃士

牧嶋 平

リヴァ・クリストフ

ゲストアーティスト

Yukawa-Nakayasu

主催 京都:Re-Search 実行委員会(京都府、和束町、ほか)

協力 (株)すぎもと、(有)北午木材、京都おぶぶ茶苑

令和2年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業

表紙写真: ©Yukawa-Nakayasu

